

細腕なんて言わせない!!

293



「この20年、早かったですねえー。自分が会社を、法人を設けるなど思いませんでした。両親に感謝です。頑張ります」と、笑顔で話す鈴木さん

音楽で皆を幸せにしたい

「突撃営業してきました」と語る

鈴木 恵さん

■エモーション代表取締役
■いわき市石塚町東一〇ノ一四

電話／〇二四六―六二一八八八六

「頑張り屋」と呼ばれる女性は、多い。しかし、無我夢中に頑張るだけではなく、自らが進む道筋、いわば将来を見据えたプランをきちんと設定し、歩むとなると難しい問題も多々出てくる。

セレモニー奏者として、全国制覇を目指して東奔西走中の鈴木恵さん（四七）は、一人で何役もこなして日々の奮闘に余念がない。

茨城県の短大を卒業した鈴木さんは、大手メーカー、医療事務などを経験していたが、「将来をみて、『生計を立てる何かをしなければ…』と考え、子どものころに習っていたエレクトーンを思い出し、東京・新宿の音楽学校へ入学、学びました」。自身、二十五歳の時だった。

自宅に戻った後は、プレハブの建物を教室に、「めぐみ音楽教室」を開講。「生徒は、近所の子ども一人から始めました」。今では四歳児から七十代近い男性まで毎週五十人余に指導を行っており、これまでに教えた生徒はおよそ百人以上。

その後、二〇〇一年にシステムエンジニアの俊雄さん（五二）と結婚し、三年後には「さらなる発展のために」とし、会社を設立。社長となった彼女は、「自分で市内外の関係施設などを回って、連日、突撃営業を行いました。自分で拓（ひら）いたものですから、とにかく頑張っ続けてきました」と語り、大きな笑顔を見せながら振り返る。

民謡、ポップス、童謡も

エレクトーン奏者としての彼女の持ち味は、「どんな曲もOKです」と胸を張るマルチさ。演歌、ポップス、童謡など、依頼、要請があればすべてこなしている。多くの犠牲者が出た東日本大震災直後には、「月に百回ぐらい、あちこちの葬儀場で演奏をさせていただきまし

た」。

活動エリアはいわきから水戸まで、数人のプレーヤーを抱えて各種イベントの業務なども遂行し、自宅での教室は週に三回、午後四時から九時頃まで開いて指導。

一方、鈴木さんのもう一つの「翼」は、一般社団法人「セレ

モニ―演奏 コーディネーター協会」の運営。

「音楽への夢を取り戻したい人と、みんなが幸せになれるセレモニ―演奏を共に広めたい」などを理念とした法人。自ら東京に本部を持ち、週に二回ほど上京して希望者を対象に講座を開き、その輪



の全国への拡大を図るなど、エネルギーッシュに活動中。

ところで、会社は今年九月に創立二十周年を迎えるため、鈴木さんとともに活動している業務委託のプレーヤー、指導の先生らと

ともにコンサートを開き、満二十歳を祝う予定、という。

鈴木さんは、「土、日曜日も働いて、正月の三日以外はフル回転でした。早いものでもう二十年。自分で会社を持ち、法人までもとは…。学校では必死で勉強してきましたし、親に感謝です」と笑顔で続ける傍ら、現今の社会に対しては、「最近では『自分さえよければ』の風潮が強いですねえー。これからは少子化問題もあるし。政府は税金の使い方についても、子育て世代のことを考えてほしいです」と、語っていた。



「自分さえよければでは」と強調

今秋には創立20周年 記念コンサート予定

プロフィール

すずき・めぐみ

1973年1月9日、錦町生まれ。人一倍の行動派。エレクトーンはもちろん生演奏で、コード譜をみれば即OK。法人のメンバーは今、全国で100人ほど。調停員も務める。秋の20周年コンサートに思いをはせている。子どもは高校2年の娘と、小学5年の息子の2人。アルコールは「大好き」。得意な料理は「コロッケとギョーザ」。A型

■お知らせ=このコーナーでは、自ら選んだ仕事に、あるいはその人生においてひた向きに励み、努めている女性を紹介しています。情報をお寄せください。

※このコーナーは隔月掲載です。

残したい日本のホンモノ

伝統的工芸品 しな織逸品展

日時:2020年5月7日(木)~5月18日(月)

樹皮から作られた 伝統の古代布が織りなす 素朴で力強い生命力にあふれた逸品

伝統的工芸品 羽越しな布

しな織創芸石田

有限会社 **小野美術**

営業時間/午前10時~午後6時 (最終日は午後5時閉場)

いわき市平字中町22番地の2 Kビル1F

☎0246-35-0383

HP: <http://onobijutsu.jp> e-mail: info@onobijutsu.jp